

## ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。  
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

### お客様メモ


お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

### 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00~12:00, 13:00~17:00

#### ●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。  
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。  
※長くお待たせする場合があります。  
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03) 5783-0626	TEL (076) 263-4311
●北海道支店	●関西支店
TEL (011) 786-5122	TEL (0798) 37-2665
●東北支店	●中国支店
TEL (022) 288-8676	TEL (082) 504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03) 6738-0872	TEL (087) 863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052) 533-0231	TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに  
アクセス

バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認  
いただけます。



## 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99126602 110 F

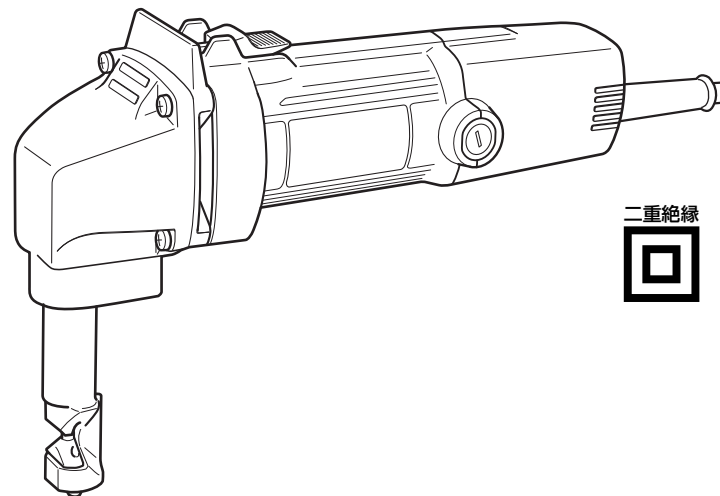
# HIKOKI

## ニブラ

1.6 mm CN 16SA

## 取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

## 目次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
ニブラの使用上のご注意	5
各部の名称	6
標準付属品	6
仕様	7
用途	7
作業前の準備	7
ご使用前に	8
切り方	9
ポンチとダイスの交換	11
保守・点検	13
ご修理のときは	裏表紙

### 警告、注意、注の意味について

**警告**：誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**注意**：誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注**：製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## 電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

### 警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**  
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
  - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
  - 作業場は十分に明るくしてください。
  - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**  
電動工具を使用中、体をアース（接地）されている物に接触させないようにしてください。  
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ **子供を近づけないでください。**
  - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
  - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
  - 安全に責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**  
乾燥した場所で、子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**  
安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
  - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
  - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
  - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
  - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
  - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

## ⚠警告

- ⑨ **保護メガネを使用してください。**  
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**  
騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引いてコンセントから抜かないでください。
  - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**  
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**  
常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
- 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。
  - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
  - コードを点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
  - 継ぎ(延長)コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
  - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いてください。**
- 使用しない、または、準備・調整・保守・点検・修理する場合。
  - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
  - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**  
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ **不意な始動は避けてください。**
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
  - さし込みプラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ **屋外使用に合った継ぎ(延長)コードを使用してください。**  
屋外で継ぎ(延長)コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

## ⚠警告

- ⑲ **油断しないで十分注意して作業を行ってください。**
- 電動工具を使用する場合は、取扱い方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
  - 常識を働かせてください。
  - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑳ **損傷した部品がないか点検してください。**
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
  - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
  - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
  - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
  - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ㉑ **指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**  
この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外の物を使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
- ㉒ **電動工具の修理は、専門店に依頼してください。**
- この製品は、該当する安全規格に適合しているもので改造しないでください。
  - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

## 回 二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に **回** マークで表示してあります。純正品以外の部品と交換したり、まちがって組み立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

## ニブラの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ニブラについて、次に述べる注意事項を守ってください。

### ⚠警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。  
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 使用中は、機体を確実に保持してください。  
確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ③ 使用中、機体が高温になったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。  
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ④ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、工具類や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。  
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

### ⚠注意

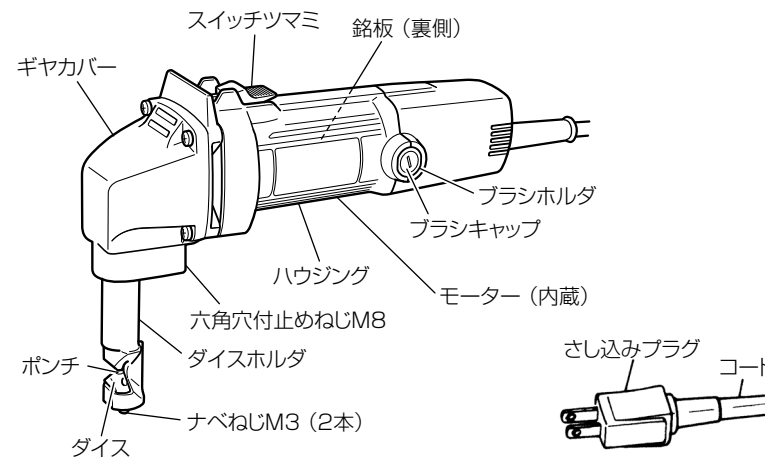
- ① ポンチやダイスは、取扱説明書に従って確実に取付けてください。  
確実にないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 被切断材の切り口に触れないでください。  
切断した鋼板などの切り口は鋭利になっているため、けがの原因になります。
- ③ ポンチとダイスはいつも良い切れ味で使用してください。  
切れ味が悪いと、切断面がきれいに切れないばかりでなく、モーターや各部に負荷が多くかかり、作業の能率も上がりません。
- ④ 作業中は工具（ポンチ、ダイス、ダイスホルダ）が熱くなるので、工具交換時には注意してください。
- ⑤ 切断直後の切りくずは高温になっているので、触れないでください。  
やけどの原因になります。
- ⑥ 機体を切りくずの上に置かないでください。  
万一機体の中に切りくずが入ると、故障や事故の原因になります。



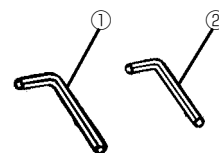
### ⚠注意

- ⑦ 切断した鋼板の切り口で、コードを切断しないよう注意してください。  
感電の恐れがあります。
- ⑧ 機体を置くときは、スイッチを切って、モーターを停止させてから置いてください。  
モーターを回転させたままで置くと、機体が移動したり、異物を吸い込んだりして事故の原因になります。
- ⑨ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。  
材料や機体などを落としたりしたとき、事故の原因になります。
- ⑩ スwitchを入れたまま、台や床などに放置しないでください。  
けがの原因になります。

## 各部の名称



## 標準付属品



- ① 六角棒スパナ (4 mm)…………… 1 個  
(ダイスホルダ取付ねじ用)
- ② 六角棒スパナ (2.5 mm)…………… 1 個  
(ポンチ取付ねじ用)

## 仕 様

使用電源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V
切断能力	軟鋼板、非鉄金属板…………… 1.6 mm ステンレス板…………… 1.2 mm
モーター	単相直巻整流子モーター
全負荷電流	4.2 A
消費電力	400 W
無負荷ストローク数	2,300 min <sup>-1</sup> { 回 / 分 }
最小切断半径	40 mm
切断溝幅	5 mm
質 量	1.6 kg (コードを除く)
コ ー ド	2 心キャブタイヤケーブル 2.5 m
振動 3 軸合成値* <sup>1</sup>	10.0 m/s <sup>2</sup> * <sup>2</sup>

※1: 振動 3 軸合成値 (周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値) については、JEMA [一般社団法人日本電機工業会] ウェブサイト: <https://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html> をご参照ください。

※2: 振動 3 軸合成値は、EN60745-2-8 規格に基づき測定しています。

## 用 途

○ 軟鋼板、キーストンプレート、デッキプレート、銅板、アルミ板、ジュラルミン板などの切断および窓抜き作業

## 作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

### 1. 漏電しゃ断器の確認

この機体は二重絶縁構造で、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをお勧めします。

## 2. 継ぎ (延長) コード



警告

● 継ぎ (延長) コードは、損傷のない物を使用してください。

電源が離れているときは、電流を流すのに十分な太さの継ぎ (延長) コードをできるだけ短くして使用します。

次の表は、コードの太さ (導体公称断面積) によって、機体を使用できるコードの最大長さを示します。

導体公称断面積	最大長さ
0.75 mm <sup>2</sup>	20 m
1.25 mm <sup>2</sup>	30 m
2 mm <sup>2</sup>	50 m

これを超える長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

## 3. 作業環境の整備・確認

作業する場所が 2 ページの「電動工具の安全上のご注意」①、②、④ 項にかけられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

### ○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

## ご使用前に



警告

● ご使用前に次のことを確認してください。1 ~ 4 項については、さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

### 1. 使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。

また、直流電源で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

### 2. スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源コンセントにさし込むと不意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。

スイッチはスイッチツマミ (6 ページの図参照) を押し、ON (入) の位置にすると入り、スイッチツマミの後部を押すと自動的に OFF (切) の位置に戻り、切れます。スイッチツマミが OFF (切) 側にあることを必ず確認してください。

### 3. ダイス部の点検

ダイスホルダ取付用六角穴付止めねじ M8、ダイス取付用ナベねじ M3 (6 ページの図参照)、またポンチ取付用六角穴付止めねじ M5 (12 ページの図参照) がゆるんでいないかどうか点検してください。これらのねじがゆるんでいると、良く切れないばかりでなく機体の損傷をまねく恐れがありますのでご注意ください。

### 4. 注油する

ご使用前に、ポンチとダイス部周辺 (6 ページの図参照) にスピンドル油 (またはマシン油) を数滴注油してください。

### 5. 電源コンセントの点検

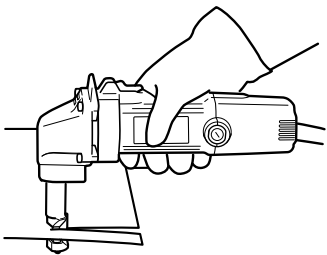
さし込みプラグをさし込んだとき、電源コンセントがガタガタだったり、さし込みプラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

## 切り方

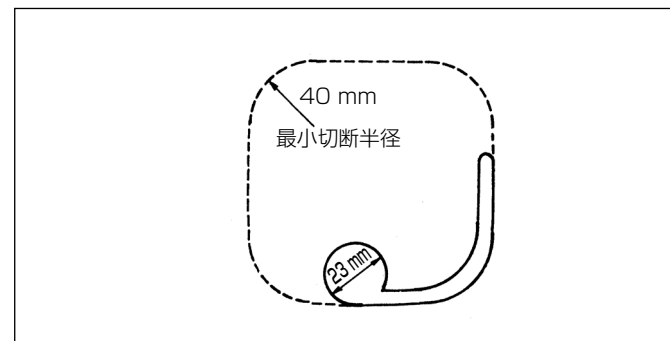
### ⚠注意

- 切断する板に機体を水平に保持し、さらにダイスホルダが被切断部と直角になるようにしてください。
- 切断線に沿って切削油 (スピンドル油、マシン油など) を塗布すると、ポンチ、ダイスの摩耗を軽減できます。なお、ハウジングなどに切削油が付着すると表面がいたむ場合があるので付着させないようにしてください。
- 能力以上の厚さの材料は絶対に切断しないでください。  
能力以上の厚さの材料を切断すると早期故障の原因になります。
- 機体は切りくずの散らばっている所には置かないでください。
- 切断直後の切りくずは熱くなっているのでご注意ください。

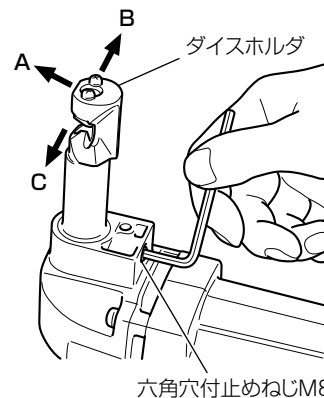
#### 1. 平板を切る場合



左図のように切断する板と機体を水平に保持し、軽く機体を押し進めて切断します。窓抜き作業の場合には次ページの上図のように直径 23 mm 以上の穴をあけておき、ダイスホルダの先端をさし込んで切断を開始します。



#### 2. 折板 (キーストンプレート、デッキプレート) を切る場合

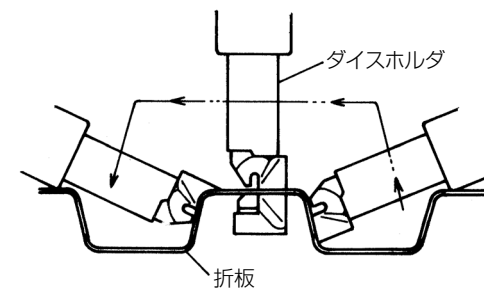
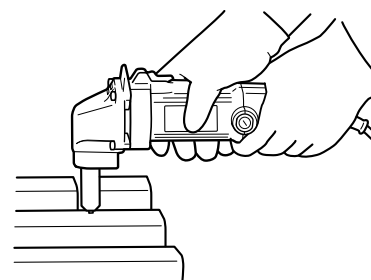


- (1) この機体は、ダイスホルダを止めている六角穴付止めねじ M8 を付属の六角棒スパナ (4 mm) でゆるめると、刃口の向きを 90° ごとに左図の A、B、C の 3 方向に変えることができます。

折板を切断する場合は、刃口を B または C 方向にします。

その後、六角穴付止めねじ M8 をしっかりと締付けます。

- (2) 機体を下左図のように両手でしっかりと握り、下右図のように折板の切断部の面に対してダイスホルダの軸がほぼ直角になるように機体を押し進めて切断します。



# ポンチとダイスの交換

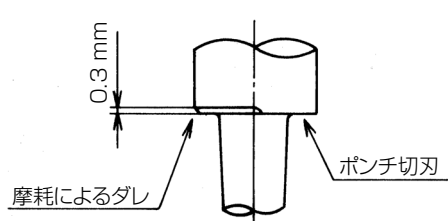
## 警告

•万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

### 1. ポンチとダイスの切断寿命長さ

ポンチとダイス切刃面の摩耗および欠けは作業に大きく影響します。通常使用でのポンチとダイスの寿命を下表に示しますので寿命の近くまで使用しましたら早めに新品と交換するようにしてください。ポンチとダイスは一緒に交換するようにしてください。

被切断材		ポンチとダイスの切断寿命長さ
軟鋼平板 (SPCC 等)	板厚 1.6 mm	300 m
軟鋼折板 (キーストプレート、デッキプレート等)	板厚 1.6 mm	50 m
	板厚 1.2 mm	100 m
ステンレス平板 (SUS304 等)	板厚 1.2 mm	200 m



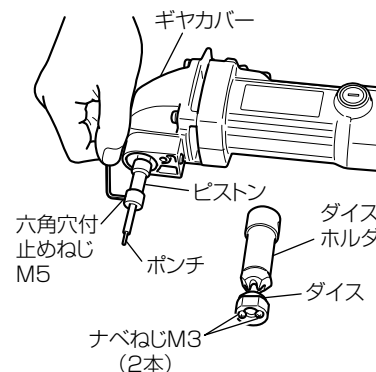
上表の寿命長さまで切断しますとポンチには左図に示すような摩耗によるダレができます。

ポンチとダイスの交換時期の目安にしてください。

**注** •切断寿命長さを超えたポンチとダイスで切断を続けるとダイスホルダに無理な力がかかり、ダイスホルダが折損するので注意願います。とくに板厚 1.6 mm の軟鋼折板 (キーストプレート、デッキプレートなど) を切断すると摩耗が早くなるので、ポンチとダイスを早めに交換するようにしてください。

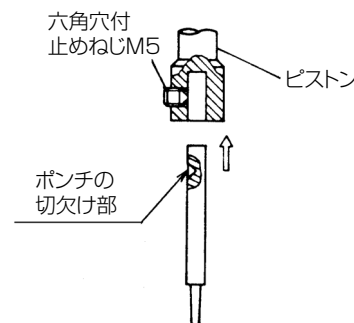
### 2. ポンチとダイスの交換方法

**注** •交換するときには、ギヤカバー内、ダイスホルダ内、ピストン外周部にごみを付着させないようにしてください。



#### (1) ポンチの交換

- ダイスホルダを止めている六角穴付止めねじ M8 (10 ページの左中図参照) を付属の六角棒スパナ (4 mm) でゆるめて、ダイスホルダを取りはずします。
- ピストンとポンチを止めている六角穴付止めねじ M5 を付属の六角棒スパナ (2.5 mm) でゆるめて、ポンチを引き抜きます。
- 新品のポンチを、ポンチの切欠け部と六角穴付止めねじ M5 の方向を合わせながら挿入し、六角穴付止めねじ M5 をしっかりと締付けます。(左下図参照)



#### (2) ダイスの交換

- ダイスホルダを止めているナベねじ M3 (2 本) をゆるめて、ダイスを取りはずします。
- ダイスホルダに新品のダイスを取付け、ナベねじ M3 (2 本) を軽く締めておきます。
- ダイスホルダをギヤカバーに取付け、六角穴付止めねじ M8 をしっかりと締付けます。
- ポンチがダイスの穴に入っている状態で、ナベねじ M3 (2 本) をしっかりと締付けます。

#### (3) 注油

以上の交換作業が終わりましたら、ポンチとダイス部周辺にスピンドル油 (またはマシン油) を数滴注油してから、数秒間無負荷運転してください。

# 保守・点検

## 警告

●点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

### 1. ポンチとダイスの点検

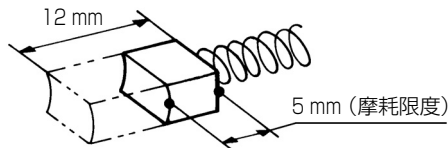
ポンチの切刃面の摩耗および欠けは作業に大きく影響します。またダイスについても同じです。早めに新品と交換してください。

詳細内容については 11 ページの「ポンチとダイスの交換」の項をご参照ください。

### 2. 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

### 3. カーボンブラシの点検………



モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなると、モーターの故障の原因になります。長さが摩耗限度(5 mm ぐらい)になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由に滑るようにしてください。

注 ●新品と交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。

### 交換方法

- (1) カーボンブラシは、マイナスドライバーなどでブラシキャップ(6 ページの図参照)をはずすと取り出せます。カーボンブラシは、必ず 2 個同時に交換してください。
- (2) 新品のカーボンと交換後、ブラシキャップを取付けます。

### 4. モーターの取扱いについて

モーター(内蔵)(6 ページの「各部の名称」を参照)に、油および水をつけないよう十分に注意してください。

注 ●ごみやほこりを排出するため、50 時間ぐらい使用したら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をモーター後部の風穴から吹き込んでください。  
モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

### 5. 表面のよごれ清掃

機体の外枠のよごれは乾いたやわらかい布かまたは石けん水をつけた布などでふいてください。塩素系溶剤、ガソリン、シンナー、石油、灯油類はプラスチックを溶かす作用をしますので使わないでください。

### 6. 機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が 50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届く場所、簡単に持ち出せる場所
- 軒先など雨が掛かる場所、湿気のある場所
- 温度が急変する場所
- 直射日光の当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所